

風景

イラストレーターの独り言

大橋 歩



読売新聞社

イラストレーターの独り言

風景

読売新聞社

大橋 歩

著者紹介 おおはし あゆみ

昭和15年6月16日、三重県に生まれる。昭和39年多摩美術大学油絵科卒業。

イラストレーター。大学卒業後、「平凡パンチ」の表紙を7年半描き、好評を博した。昭和41年、彫刻家石井厚生氏と結婚。1児の母。昭和47年にエッセー「トマトジュース」シリーズ（講談社刊）を出版し注目される。

「鉛筆の先ちょ」(大和書房刊)「あなたの部屋はごきげんですか」(21世紀ブックス)

「愛の画文集」(生活の絵本社刊)ほか著書多数。

風景イラストレーターの独り言

著者——おおはし あゆみ
大橋 歩

編集人——守屋健郎

発行人——大原規男

発行所——読売新聞社

東京都千代田区大手町一の七の一
大阪市北区野崎町八の一〇
北九州市小倉北区明和町一の一

印刷所——凸版印刷株式会社

製本所——寿製本株式会社

第一刷——昭和五十六年十二月十七日

定価 一、一〇〇円

0095-703220-8715

© 1981, Ayumi Ōhashi

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

風景
目次

光

カギをかけて 9

白い紙 14

私の仕事 17

女の仕事 21

三足のわらじ 25

見える、見える 29

子供のねまきのきこち 34

社会 38

ブリオシュの味 42

お金持ち 47

空

キャンデーキャンデー 49

親と子供 53

ぬくもり 57

いい子でいて 61

バランス 65

子供はカレーライスの味 69

ことば 73

親 78

風

スペース 81

光とスペース 85

区切り 89

衣食の次が住 93

日本人 96

器もご馳走 100

朝食 104

デザート 108

葉っぱのにおい 111

ある日 114

無趣味の趣味 118

地

ニューヨークから

121

ハイウエー

138

ポテトスフレの味

141

小さな花

145

エネルギー

149

化石

155

コロンバス通り

158

色

よくあるはなし

161

男と女

165

口紅いろ

169

黒子

173

形

しっかりした実

177

楽ちんなパンツ

180

良い相手 185

白い壁 189

それなりに 193

古い石鹼のにおい 198

ねこいらんな

メールボックス 206 202

空を飛ぶ 209

休息日 212

時

スタジオム 217

英国 221

メンズファッション写真から

224

白と黒 229

世間 233

あながき 237

装丁
イラスト
大橋
歩

風景

イラストレーターの
独り言

カギをかけて

私は通勤五十分ぐらいのところに仕事場を持っています。二十畳ほどのワンルームですが、私の趣味で統一しています。壁は白、床は木、テーブルは大理石、椅子はステールと白い木綿の布張り、ソファは黒の皮。

私の仕事場ですから、誰にも文句はいわせません。さみしいから赤い花の鉢植えでも置いたら？ とか壁に絵でもかざったら？ といわれることがあると、カッと血が頭にのぼります。心の中では「放っとけ！（関西風の言葉で、よけいなお世話の意味）」とつぶやきます。そのくせ口では、「うーん、まあね」

そう答えてしまう自分は大嫌いなのですが、そう答えてしまう性格なんです。ね。
ともすると誤解されます。アドバイスしたがりの人（たいがいそういう人ってセンスのない人が多い）

いは、

「ピンクの蘭の花の鉢植えなら豪華よ。冬ならシクラメン、夏ならサルビア、ね」

とエスカレートしてしまうので、私はそういう人に出会ったら、部屋の話題から外の話題へ話をそらせるように努力しています。

椅子の位置、ガラスの置き物の置き方、灯りのとり方、それぞれ私風といおうか、私式のやり方があるって、絶対に人まかせにはいたしません。頑固なんです。

自分だけの城を持てる人ってそう多くはないんじゃないでしょうか。家族がいる主婦ならなおさら。

私の仕事は一人っきりでやる仕事ですが、わざわざ仕事場を通勤五十分もかかる都心につづ必要は本当のところないのです。自宅の仕事をしていらっしゃる人も多いはず。一家をささえている男の方も自宅に仕事部屋をとってやってらっしゃる。

「女はね、主婦はね、仕事と家事の区切りがつけにくいのよ。男は仕事場に入ればお父さんはお仕事で、誰でも邪魔をいたしません。けれど女は、仕事中でも来客があれば仕事を中断、子供が泣いたから中断、昼ごはんの用意に中断、買い物に中断。中断だらけのつぎはぎの仕事になってしまわなくもないのですね」

と弁解します。

弁解じゃなくて本当につきはぎだらけの気持で仕事はわりです。私は十時に仕事場に入ったら、

ひとつの仕事のくぎりがつくまで外には出ません。電話に出たりお茶を飲んだりはしますが、気持はやりかけの仕事に向いたままです。

朝十時すぎから夜七時すぎまで、一人で仕事場の中にいるのは、そうつらいことでもありません。一日がフルに使えている実感があります。

ところで日曜日、私の休息日のなんとあわただしく短いことか。掃除してシーツのアイロンをかけてシーツをとりかえて、軽い昼食をして、夜の食事の買い物に行って、帰ってくるとすぐに夕食の用意にかかって、夕食をすませると、一日も終わりでしょう。お休みの日にはあれもしようこれもしよう。けれどもどれもしいまま、やりたいことだけがたまって山になってしまふ。日曜日はいつもよりかなり短いんだよねえと、ひがみたくなるほどあつという間、何もしないで終わってしまうのです。やっぱり女は、主婦は、自宅で仕事をやっていくにはかなりむづかしい！ 自宅で家事と仕事を上手にこなしている方、ものすごくえらいと思います。

私はインタビュ（おそれ多くも）のたぐいは仕事としていただきません。

私の仕事は机の上での仕事だときめてかかっています。イラストレーターが女の生き方やら、子育て論なんかしゃべりまくれる立場ではないと今は思っています。こうやって机の上で少しづつ、考え考えたなくつづつてしゃべっていくのは、そうそうむづかしいとは思わないのですが、カメラマンにパシャッパシャッと写真をとられながらのインタビュは、私にはむいていない。だからして私は、デビュをお世話になった日出版社以外はおことわりするのです。もちろん

おことわり出来ないつながりのある方もあって、ちょっとおこがましくも、インタビューなんていう晴れがましいページに顔を出させていただいていこともなくはありませんが。

私は、

「ごめんなさい。主婦なので仕事場にいられる時間に限りがあるんです。時間の中でいただいた仕事をやっております。いつか子供の手がはなれた頃、いろんな仕事をさせていたきたいと思っていますので、今回は本当にごめんなさい」

とおことわりをするのです。子供が十八歳になったら一八二七〇四五、わあーっ四十五歳！ その頃そんなお話があるとも思えない。いや後五年ねえ、もうすぐだ、考えればどんな気持が沈んでいく結果になった。

さっき、仕事をしている友人が二時間ほど私の仕事部屋にきて話していききました。帰りがけに、「ああホッとした。私の事務所は人も多いし、時々疲れる」といっていました。

飾りのなんにもない私の仕事場で、ホッとしてもらえるのは、めまぐるしく忙しい毎日を送っている人だけかもしれない。疲れた頭の中に、赤やピンクや黄色はなぐさめ色にならないのではないだろうか。気にさわらないごくシンプルな空間と、おいしい日本茶が一番良い。おいしいお茶がきれているので、買っておかねばなりません。

主婦であるはずの私は、私の仕事場では私自身になりきれ。私自身をつらぬき通す。だから

してたまに訪れる主人も子供もじゃけんに扱われるのです。主人も子供も、それを自然に受けとめている。文句をいわない。机にむかったまま立ち上がらなくても、あたりまえに思っていてくれている。ここはママのお仕事場だと認識していてくれている。

主婦の立場でこうやって仕事場を外に持てるのは恵まれています。

さて、もう八時二十分。子供は九時半頃にはベッドに入るはずだから、帰らなければならないなあ。

七時が過ぎる頃から、私はあたりまえの神経の主婦にもどってしまいます。帰らなければ、と思ひ、子供を案じます。今十三歳です。もう後ほんの少しです。後五年もしたら気持ちが楽になるでしょう。

私は仕事が終わると一応片づけをします。来客用のテーブルの上に余分なものがのっかっていると気になります。仕事机の上はたいがい、続きの仕事をのせたままも多いのですが、だからそれ以外に物を散らかさくないのです。なんにも置いてないテーブルがひとつあれば、それで気持ちがやすらぐのです。かわったやすらぎ方かしら。

台所に飲んだ後のカップを放りっぱなしで帰ってしまう日は、とても疲れている日か、子供が気になる日。たいがいはいきちんと洗ってふいてしまいいこんで終わりです。

部屋の灯りを全部消してカギをかけてしまうと、私はすっかり主婦の私にかえっています。帰り道はいつも急ぎ足です。

若い男の子を描く仕事で始まった私のイラストレーターという仕事は、女を描く仕事になり、子供を描く仕事になり、また女を描く仕事が中心になって、もう十七年。

十七年たって今、若い男の子や男の人の絵を描きなくなっています。

ところが、男の絵を描く仕事って少ないんですね。それと時代が変化してきているから、私のような男の絵じゃ、ちょっとちがうみたい。今私にきている男の絵は、十七年前をしのんだみたいな感じがありますから。

けれど決して私は昔にもどる気はないのです。私の十七年前の仕事の印象が強かったので、仕事がそこにもどってしまうだけでしょう。

困るんです。本当は私は困るんです。私は今は今のつもりですから、アイビーやトラッドが流^は